

北上市憩いの森「夏のわんぱく自然教室」丸太伐りで大賑わい

1 はじめに

7月28日(土)、北上市憩いの森で公益社団法人岩手県緑化推進委員会北上支部と北上市森林組合が共催して「夏のわんぱく自然教室」が開催されました。夏休みを迎えた小学生以下の親子を対象に、森林の役割や森林保護の重要性を啓発・普及するため「緑の募金」を活用して実施しているもので、今年で27回目を迎えました。花巻農林振興センターも毎年協力参加し、今年は丸太伐り体験を支援しました。

2 体験内容

今年の参加者は18組45名で、親20名、子供23名内2名は未就学児でした。参加者を3グループに分けウォークラリー形式の自然教室を行い、各ポイントでクイズやスイカ割り、丸太伐りを体験してもらいました。丸太伐りは昨春植菌したホダ木を、長さ20cm程の丸太に伐って持ち帰り、家でシイタケの発生を楽しんでもらう目論みでした。また、午後はダンボールと割箸を使った工作を行いました。

3 作業風景

丸太伐りは、径10cm程度のホダ木なので容易に伐れると想定していましたが、参加児童の半数以上が小学校低学年で未就学児も2名いたことから、最初のノコ跡が付くまでが一苦勞で、その後も押ししたり挽いたり悪戦苦闘。順番を待つ子が後ろに並ぶのもお構いなし。お母さんやお父さんの声援でようやく伐れる子もいましたが、どの子も伐り落した時の顔は達成感に満ち溢れていました。

4 普及の視点

このイベントでは従来木工工作を行なっていたが、今年はダンボール工作に変更になりました。木工に比べて簡易で、子供達が完成した作品で直ぐに遊ぶことが出来ることから、大変好評でした。

丸太伐りを終え、伐った丸太を大事に持ち帰る子供達を見ると木への思いはあるようなので、木工工作も内容の工夫が必要と感じました。



【小学1年生の丸太伐り】



【ダンボール工作：かみつきモンスター】